

500 P1544 WU00
PCT/JP00/09023

JP 00/09023 20.12.00

日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

REC'D 19 JAN 2001
WIPO PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。
(T)

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

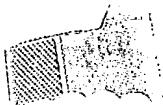
出願年月日
Date of Application: 1999年12月21日

出願番号
Application Number: 平成11年特許願第363465号

出願人
Applicant(s): ソニー株式会社

PRIORITY
DOCUMENT

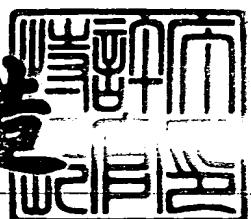
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)



2000年 9月18日

特許長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3075479

【書類名】 特許願

【整理番号】 9900962207

【提出日】 平成11年12月21日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【国際特許分類】 G06F 1/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社
内

【氏名】 佐古 曜一郎

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社
内

【氏名】 所 真理雄

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社
内

【氏名】 猪口 達也

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社
内

【氏名】 木島 薫

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100082762

【弁理士】

【氏名又は名称】 杉浦 正知

【電話番号】 03-3980-0339

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 043812

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9708843

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子マネー、電子利用権、課金システムおよび情報処理装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 現金に相当する効力を有する電子マネーであって、
そのセキュリティを発行元または管理者が変更可能とされたことを特徴とする
電子マネー。

【請求項 2】 コンテンツの再生等のソフトウェアの利用を可能とする電子
利用権であって、
そのセキュリティを発行元または管理者が変更可能とされたことを特徴とする
電子利用権。

【請求項 3】 請求項 1 または 2 において、
上記セキュリティが暗号化の鍵、上記鍵の鍵長、エラー検出および／または訂
正コード、または有効期間であることを特徴とする電子マネーまたは電子利用権

【請求項 4】 請求項 1 または 2 において、
上記変更が所定期間毎になされることを特徴とする電子マネーまたは電子利用
権。

【請求項 5】 請求項 1 または 2 において、
上記変更が上記発行元または管理者の必要に応じてなされることを特徴とする
電子マネーまたは電子利用権。――

【請求項 6】 請求項 1 または 2 において、
上記変更がなされた後、一定期間経過後に上記変更前のものを無効とすること
を特徴とする電子マネーまたは電子利用権。

【請求項 7】 請求項 2 において、
上記ソフトウェアは、オーディオデータ、ビデオデータ、静止画像データ、文
字データ、コンピュータグラフィックデータ、ゲームソフトウェア、およびコン
ピュータプログラムの内の少なくとも 1 つであることを特徴とする電子利用権。

【請求項 8】 圧縮符号化および／または暗号化されたソフトウェアが配付
され、配付されたソフトウェアをコーナーが復号するに際し、コーナーが所有する電

子マネーを介して課金処理がなされたようにした課金システムであって、電子マネーのセキュリティを発行元または管理者が変更可能とされたことを特徴とする課金システム。

【請求項9】 壓縮符号化および／または暗号化されたソフトウェアが配付され、配付されたソフトウェアをユーザが復号するに際し、ユーザが所有する電子利用権を介して課金処理がなされたようにした課金システムであって、

電子利用権のセキュリティを発行元または管理者が変更可能とされたことを特徴とする課金システム。

【請求項10】 請求項8または9において、

上記セキュリティが暗号化の鍵、上記鍵の鍵長、エラー検出および／または訂正コード、または有効期間であることを特徴とする課金システム。

【請求項11】 請求項8または9において、

上記変更が所定期間毎になされることを特徴とする課金システム。

【請求項12】 請求項8または9において、

上記変更が上記発行元または管理者の必要に応じてなされることを特徴とする課金システム。

【請求項13】 請求項8または9において、

上記変更がなされた後、一定期間経過後に上記変更前のものを無効とすることを特徴とする課金システム。

【請求項14】 請求項8または9において、

ユーザが所有する電子マネーまたは電子利用権を上記発行元または管理者が買い取るか、または有効な電子マネーまたは電子利用権へ交換することを特徴とする課金システム。

【請求項15】 請求項8または9において、

ユーザの復号の結果が電子マネーまたは電子利用権で許容された範囲に達したタイミングで、電子マネーまたは電子利用権の要求を発生することを特徴とする課金システム。

【請求項16】 請求項8または9において、

上記ソフトウェアは、オーディオデータ、ビデオデータ、静止画像データ、文

字データ、コンピュータグラフィックデータ、ゲームソフトウェア、およびコンピュータプログラムの内の少なくとも1つであることを特徴とする課金システム。

【請求項17】 電子マネーまたは電子利用権を用いることによって稼働しているシステムであって、

電子マネーまたは電子利用権のセキュリティチェックを行い、
セキュリティチェックの結果が正しくないときには、システムの稼働の停止、
並びにセキュリティチェックの結果が正しくないことの通知の少なくとも一方を行ふことを特徴とする課金システム。

【請求項18】 圧縮符号化および／または暗号化されたソフトウェアが配付され、配付されたソフトウェアをユーザが復号するに際し、ユーザが所有する電子マネーまたは電子利用権を介して課金処理がなされたようにした課金システムであって、

電子マネーまたは電子利用権のセキュリティチェックを行い、
セキュリティチェックの結果が正しくないときには、システムの稼働の停止、
並びにセキュリティチェックの結果が正しくないことの通知の少なくとも一方を行ふことを特徴とする課金システム。

【請求項19】 配付された圧縮符号化および／または暗号化されたソフトウェアを復号するに際し、電子マネーまたは電子利用権を介して課金処理がなされたようにした情報処理装置であって、

電子マネーまたは電子利用権のセキュリティチェックを行い、
セキュリティチェックの結果が正しくないときには、ソフトウェアの復号の停止、
並びにセキュリティチェックの結果が正しくないことの通知の少なくとも一方を行ふことを特徴とする情報処理装置。

【請求項20】 請求項17、18または19において、
上記セキュリティチェックが暗号化の復号の結果、エラー検出および／または訂正の結果、または有効期間のチェックであることを特徴とする情報処理装置。

【請求項21】 請求項17、18または19において、
上記セキュリティチェックは、復号がされた後に残りの電子マネーまたは電子

利用権が正しい状態かどうかをチェックすることでなされることを特徴とするシステムまたは装置。

【請求項22】 請求項17、18または19において、

上記通知が電子マネーまたは電子利用権の発行元または管理者に対してなされることを特徴とするシステムまたは装置。

【請求項23】 請求項17、18または19において、

上記通知がユーザに対してなされることを特徴とするシステムまたは装置。

【請求項24】 請求項17、18または19において、

上記通知がユーザに対してなされることを特徴とするシステムまたは装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、例えば音楽配信に適用される電子マネー、電子利用権、課金システムおよび情報処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

現金と同様に流通する電子マネーが実用化されようとしている。電子マネーは、ICカードに蓄積する。電子マネーとしては、プリペイド型、後払い型がある。さらに、インターネットとパーソナルコンピュータ（パソコン）とを使用して、自分の金融機関の口座からICカードに入金したり、未使用分を口座に入金することも提案されている。また、電話使用料、乗車券等の電子利用権をICカード、特に、非接触型のICカードを介して実現する試みもなされている。

【0003】

これらの電子マネー、電子利用権は、情報をICカードに蓄積するので、既存の磁気ストライプ型のカードに比して、偽造が難しい利点がある。また、セキュリティ対策として、リーダ・ライタとICカードと間でやり取りされるデータが暗号化されることが考えられている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、たとえ暗号化を行っていても、電子マネー、電子利用権のセキュリティが充分であるとは言えない。また、電子マネー、電子利用権を配信された音楽等のデジタルコンテンツを利用するための対価として使用することが考えられる。デジタルコンテンツ自身に対しては、強力な暗号化や、コピーブロテクション等が施されているのと比較して、電子マネー、電子利用権のセキュリティが高くはなかった。また、デジタルコンテンツの利用と、電子マネー、電子利用権との共同作業がないとも、セキュリティの面で弱い原因となっていた。さらに、デジタルコンテンツは、電子マネー、電子利用権とは異なり、一旦流通すると、一元管理が難しく、コンテンツに対する暗号が破られたような場合に、システムの変更に多大な労力を要する。

【0005】

したがって、この発明の目的は、このような点に鑑み、よりセキュリティを向上することができる電子マネー、電子利用権、課金システムおよび情報処理装置を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上述した課題を解決するために、請求項1の発明は、現金に相当する効力を有する電子マネーであって、

そのセキュリティを発行元または管理者が変更可能とされたことを特徴とする電子マネーである。

【0007】

請求項2の発明は、コンテンツの再生等のソフトウェアの利用を可能とする電子利用権であって、

そのセキュリティを発行元または管理者が変更可能とされたことを特徴とする電子利用権である。

【0008】

請求項8の発明は、圧縮符号化および/または暗号化されたソフトウェアが配

付され、配付されたソフトウェアをユーザが復号するに際し、ユーザが所有する電子マネーを介して課金処理がなされるようにした課金システムであって、

電子マネーのセキュリティを発行元または管理者が変更可能とされたことを特徴とする課金システムである。

【0009】

請求項9の発明は、圧縮符号化および／または暗号化されたソフトウェアが配付され、配付されたソフトウェアをユーザが復号するに際し、ユーザが所有する電子利用権を介して課金処理がなされるようにした課金システムであって、

電子利用権のセキュリティを発行元または管理者が変更可能とされたことを特徴とする課金システムである。

【0010】

請求項17の発明は、電子マネーまたは電子利用権を用いることによって稼働しているシステムであって、

電子マネーまたは電子利用権のセキュリティチェックを行い、
セキュリティチェックの結果が正しくないときには、システムの稼働の停止、
並びにセキュリティチェックの結果が正しくないことの通知の少なくとも一方を行ふことを特徴とする課金システムである。

【0011】

請求項18の発明は、圧縮符号化および／または暗号化されたソフトウェアが配付され、配付されたソフトウェアをユーザが復号するに際し、ユーザが所有する電子マネーまたは電子利用権を介して課金処理がなされるようにした課金システムであって、

電子マネーまたは電子利用権のセキュリティチェックを行い、
セキュリティチェックの結果が正しくないときには、システムの稼働の停止、
並びにセキュリティチェックの結果が正しくないことの通知の少なくとも一方を行ふことを特徴とする課金システムである。

【0012】

請求項19の発明は、配付された圧縮符号化および／または暗号化されたソフトウェアを復号するに際し、電子マネーまたは電子利用権を介して課金処理がな

されるようにした情報処理装置であって、

電子マネーまたは電子利用権のセキュリティチェックを行い、

セキュリティチェックの結果が正しくないときには、ソフトウェアの復号の停止、並びにセキュリティチェックの結果が正しくないことの通知の少なくとも一方を行うことを特徴とする情報処理装置である。

【0013】

電子マネー、電子利用権において、定期的に、または非定期的に、発行元または管理者がセキュリティを変更する。それによって、電子マネー、電子利用権のセキュリティをより高くすることができる。

【0014】

【発明の実施の形態】

以下、この発明を音楽配信システムEMD(Electronic Music Distribution)に適用した一実施形態について説明する。最初に図1を参照して音楽配信システムの概略について説明する。図1において、101が音楽コンテンツ供給事業者例えばレコード会社を示し、102がコンテンツサーバを示す。レコード会社101が音楽コンテンツの制作およびその配給を行う。また、音楽コンテンツに関しての圧縮符号化、暗号化、ウォーターマークの埋め込みもレコード会社101が行う。コンテンツサーバ102には、レコード会社101が制作したコンテンツが蓄積される。

【0015】

103は、著作権管理機構を示す。例えばJASRAC(日本音楽著作権協会)は、著作権管理機構102の具体例である。レコード会社101は、著作権管理機構103に対して権利登録を行い、著作権管理機構103から著作権料を受け取る。

【0016】

104が配信された音楽コンテンツの再生機能を有するユーザデバイスを示す。ユーザデバイス104は、配信された音楽コンテンツを再生すると共に、再生課金の処理を行う機能を有する。すなわち、暗号化を復号し、また、圧縮符号化を復号することによって、コンテンツを再生することができ、復号に対して課金

がされる。コンテンツサーバ102とユーザデバイス104との間には、必要に応じてコンテンツ配信事業者が介在し、ユーザに対してコンテンツサーバ102内のコンテンツを配信する。配信事業者が使用する配信手段としては、幾つかのものがある。その一つは、販売店101である。例えば雑誌の付録として、コンテンツが記録されたメディアが配付される。また、インターネット、CATV(*cable television*)のような有線ネットワーク106がコンテンツの配信手段として使用される。さらに、携帯電話網107、衛星放送、衛星通信等の衛星ネットワーク108もコンテンツの配信手段として使用される。

【0017】

この発明では、上述したコンテンツ配信手段として、有料で配信されるコンテンツの配信手段を利用するのを妨げるものではない。媒体例えばCD(*Compact Disc; CD*、登録商標)の場合には、記録されている楽曲に対しての著作権料がCDの価格に含まれている。配付を無料とし、復号(再生)に課金されるコンテンツをCD上の有料コンテンツが記録された領域とは別の領域に記録するとしても良い。

【0018】

図1中では、販売店105が配付する媒体の一つとしての拡張CD121が示されている。拡張CD121の内周側の領域122は、既存のCDと同一のフォーマットで、配付が有料で、再生が無料とされた楽曲データが記録された領域である。また、外周側の領域123は、配付が無料で、再生が有料のコンテンツが記録された領域である。コンテンツは、圧縮符号化されているので、領域123が少なくとも必要な長さの音楽データを記録することができる。

【0019】

CD以外にM-D、メモリカード等の媒体の場合にも、互いに区別できる領域として、配付が有料で、且つ再生が無料のコンテンツと、配付が無料で、且つ再生が有料のコンテンツとを記録することができる。また、衛星テレビジョン放送を利用して音楽コンテンツを配信するサービスを利用して配付が無料で、再生が有料のコンテンツを配信しても良い。

【0020】

ユーザデバイス104は、コンテンツを無料で受け取ることができる。また、受け取ったコンテンツの再配付も自由に行うことができる。ここで、無料というのは、通信費、電気代等の実費を含まず、著作権料に関して無料という意味である。ユーザデバイス104が受け取ったコンテンツを再生、より具体的には、暗号化を復号する時に課金処理がなされる。課金処理のために、聴取権データ109が使用される。聴取権データ109は、ICカード、セキュアデコーダ内のメモリに格納されている。聴取権データ109は、聴取権データ管理会社の管理下で、ユーザが所有する課金チャージャまたは最寄りの販売店に設置された販売端末によって書き換えることが可能とされている。聴取権データ109は、例えば再生可能な度数であり、ユーザデバイス104が課金の対象のコンテンツを再生する度に、度数が減算される。

【0021】

なお、以下の説明では、聴取権データを例に説明するが、電子マネーをコンテンツの再生の支払いに当てる 것도できる。さらに、電子マネー、聴取権データ等を一括して扱うことができる多目的ICカードを使用することもできる。

【0022】

また、レコード会社101、著作権管理機構103、ユーザデバイス104と関係して代金決済のために、決済センター110が存在している。決済センター110は、認証／課金サーバ111を備えている。決済センター110は、銀行、クレジットカード会社208との間で、代金の決済を行う。

【0023】

ユーザデバイス104が受け取ったコンテンツの再生を要求すると、認証／課金サーバ111に対してユーザデバイス104の認証を要求する（A1の経路で示す）。ユーザデバイス104が正規のものであり、認証が成立すると、認証／課金サーバ111は、ユーザデバイス104に対して課金の要求を行う（経路A2）。また、ユーザデバイス104は、決済センター110との間で、代金決済を行う（経路A3）。

【0024】

決済センター110は、認証／課金サーバ111に対して、経路A4で示すように、課金がされたことまたは課金が可能であることを伝達すると共に、コンテンツサーバ102に対してコンテンツを要求する（経路A5）。コンテンツサーバ102が認証／課金サーバ111に暗号化を復号するための鍵データを渡す（経路A6）。認証／課金サーバ111がユーザデバイス104に対して、鍵データを渡す（経路A7）。ユーザデバイス104は、この鍵データによって、コンテンツの暗号を復号化し、コンテンツを再生することができる。復号化がされることをもって、そのコンテンツの再生がされたものと判断され、聴取権データ109の度数が例えば-1される。度数が0に達すると、ユーザデバイス109が復号化ができなくなる。

【0025】

図2は、聴取権データ109に関するシステムの一例を示し、音楽コンテンツの配付、コンテンツの暗号化の復号化のためのデータの授受については、省略されている。ユーザデバイス104に対応するものとして、プレーヤ201が示されている。プレーヤ201は、セキュアデコーダ202を内蔵している。また、プレーヤ201は、例えば携帯形オーディオ機器である。図2において、破線で示すように、プレーヤ201が再生する媒体（光ディスク、メモリカード等）には、音楽コンテンツが記録されている。音楽コンテンツの配信の方法は、図1に示したように、種々のものが使用できる。

【0026】

204は、ユーザ端末としての聴取権データチャージャを示す。データチャージャ204は、プレーヤ201のセキュアデコーダ202と決済センター110またはレコード店、コンビニエンスストア等に設置されているデータ販売端末206との間に存在して聴取権データ中継器として機能する。

【0027】

図3は、データチャージャ204の機能を概略的に示すものである。図3において、家庭内に設置される可能性のあるプレーヤの具体例が示されている。5-1がアンプとスピーカとが別体とされたオーディオ再生システムであり、5-2がチ

ユーナ、CDプレーヤ（またはMD（Mini Disc,登録商標）レコーダ）が一体化された再生機器であり、53が携帯型CDプレーヤであり、54が携帯型MDプレーヤであり、55がパソコンである。これらのユーザデバイスには、IC構成のセキュアデコーダ²⁰¹、²⁰²、²⁰³、²⁰⁴、²⁰⁵が装備されている。これらのユーザデバイスに対して、データチャージャ²⁰⁴が共用され、専用接続線あるいは非接触無線通信、またはUSB（Universal Serial Bus）あるいはIEEE（Institute of Electrical and Electronics Engineers）1394によって、聴取権データの送信と、再生履歴情報の吸い上げを行うことができる。データチャージャ²⁰⁴は、携帯可能な構成とされている。

【0028】

プレーヤ²⁰¹内のセキュアデコーダ²⁰²とデータチャージャ²⁰⁴とが有線または無線の通信路を介して通信を行い、聴取権データがデータチャージャ²⁰⁴からセキュアデコーダ²⁰²内のメモリに対して転送される。聴取権データは、例えばプレーヤ²⁰¹の再生可能回数情報または再生可能時間に対応している。

【0029】

また、プレーヤ²⁰¹からデータチャージャ²⁰⁴に対して、有線または無線の通信路²⁰⁵を介してプレーヤ²⁰¹の再生履歴情報（再生ログ）が伝送される。再生ログは、復号したデジタルデータの識別子および／または復号の条件を含む。具体的には、聴取した音楽コンテンツの種類、再生回数、再生時間等の情報を含んでいる。また、再生ログには、コーザ端末の所有者、ユーザデバイスの識別子等の課金対象者を特定するための識別子が含まれている。セキュアデコーダ²⁰²とデータチャージャ²⁰⁴とは、必要に応じて認証を行い、認証が成立すると、暗号化された聴取権データおよび再生ログの伝送がなされる。

【0030】

聴取権データは、決済センター¹¹⁰から通信路²⁰⁷例えば電話回線を介してデータチャージャ²⁰⁴に渡される。または、決済センター¹¹⁰から通信路²⁰⁹を介して販売端末²⁰⁶に渡された聴取権データが通信路²⁰⁵を介してデータチャージャ²⁰⁴に渡される。この場合にも、セキュリティの確保のため

に、認証と暗号化とがなされる。

【0031】

データチャージャ204に吸い上げられた再生ログは、通信路207を介して決済センター110に送られる。また、通信路205を介して販売端末206に渡される。販売端末206は、通信路209を介して決済センター110から聴取権データを受け取ると共に、再生ログを決済センター110へ送る。さらに、入手した聴取権データの代金を決済センター110に支払う。通信路209は、電話回線、インターネット等である。

【0032】

決済センター110と聴取権データチャージャ204との間では、通信路207を介して聴取権データおよび再生ログの送受信がなされる。この場合にも、セキュリティの確保のために、認証と暗号化とがなされる。聴取権データの決済に関して、銀行、クレジットカード会社208が存在している。銀行、クレジットカード会社208は、予め登録してあるユーザの銀行口座から決済センター110の依頼に基づいて、データチャージャ204に書き込んだ聴取権データ相当する金額を引き落とす。

【0033】

さらに、決済センター110は、レコード会社101から聴取権データに関するサービスの管理の委託を受ける。また、決済センター110は、レコード会社101に対して聴取権データに関する技術の提供を行い、さらに、楽曲聴取料を支払う。レコード会社101は、図1を参照して説明したように、著作権管理機構103に対して著作権の登録を行うことによって、著作権の管理を依頼し、著作権管理機構103から著作権料を受け取る。

【0034】

図2では省略しているが、聴取権データチャージャ204は、他のチャージャとの間で、通信装置例えば非接触通信装置を通じて、視聴権データの一部または全部を移動・合算・分割可能とされている。また、データチャージャ204は、プレーヤ201のセキュアデコーダ202以外にICカードの構成のプリペイドカードに対して聴取権データを転送可能とされている。

【0035】

図4は、図2に示される課金処理システムにおけるレコード会社101、決済センター110、聴取権データチャージャ204、聴取権データ販売端末206および銀行、クレジットカード会社208の相互の関係を抜き出したものである。決済センター110がチャージャ204および販売端末206との間で、聴取権データの販売を行い、また、再生ログを收拾し、それによって代金の決済を行う機能を有する。

【0036】

図5は、聴取権データ端末210（聴取権データチャージャ204または販売端末206）と接続された決済センター110の機能をより詳細に示すものである。図5中で、実線の経路は、課金処理を実行する上で必要な処理を意味し、破線経路が課金処理を行う準備として必要な処理を意味する。多くの場合、破線の経路が郵送（文書の授受）によりなされ、実線の経路の処理がデータ通信でなされる。

【0037】

最初に破線経路による処理について説明する。レコード会社101と決済センター110の間では、レコード会社101が決済センター110に対して業務委託登録を行う（ブロック211）。決済センター110は、レコード会社110に対してマーケティングデータを渡したり、各種報告を行う（ブロック212）

【0038】

聴取権データチャージャ204の所有者である顧客213は、銀行、クレジットカード会社208との間で、料金の支払い、口座からの料金の引き落とし等の契約を結ぶ。顧客213が契約内容の変更等を決済センター110に連絡し、決済センター110が顧客情報の入力・修正を行う（ブロック214）。決済センター110が顧客213に対して請求書・領収書の発行とその郵送を行う（ブロック215）。

【0039】

次に実線経路による処理について説明する。決済センター110が顧客の要求

に応じて聴取権データ端末210に対して聴取権データを送る。その場合、顧客の特定がなされ、また、通信サーバ216を介して認証・暗号化の処理がされたデータを送る。顧客管理システム217は、データベース218中の顧客情報を参照して、認証した顧客を特定する。そして、転送した聴取権データの量に基づいて、金融決済システム219に対して、料金の引き落としを依頼する。金融決済システム219が銀行、クレジットカード会社208に対して顧客の口座からの料金の支払いを依頼し、料金の支払いが実行される。支払いの完了の報告を決済センター110が受け取ると、顧客への領収書の発行がなされる。

【0040】

聴取権データ端末210に対して、聴取権データを転送するのに先行して認証がなされる。そして、聴取権データ端末210から通信サーバ216を介して再生ログを決済センター110が受け取る。受け取った再生ログが通信サーバ216にて暗号化が復号され、再生ログ管理システム220へ送られる。再生ログには、顧客（聴取権データ端末210）を特定するための端末識別子と、復号・再生した音楽コンテンツを特定する識別子と、各音楽コンテンツを聴取した回数、時間、期間のデータとが含まれている。端末識別子は、主として上述したような聴取権データを転送したり、課金のために使用される。

【0041】

再生ログ管理システム220が再生ログを一旦データベース218に格納し、予め決められた時、例えば1カ月毎にバッチ処理で再生ログまたは再生ログを処理したデータを聴取料決済システム221に渡す。聴取料決済システム221は、レコード会社101から業務委託時にデータベース218に登録した曲等の情報を参照して、曲毎の聴取料（著作権使用料）を算出する。曲以外に作曲家、作詞家、歌手、演奏者等の項目毎に聴取料を算出することも可能である。聴取料決済システム221が算出した曲毎の聴取料がレコード会社101に対して支払われる。

【0042】

上述したように、決済センター110が顧客213への聴取権データの転送と、聴取料の請求を行い、一方、決済センター110が曲毎の聴取料を算出し、分

配する処理を行うので、レコード会社101が顧客管理を行ったり、聴取料を算出したり、分配する業務を行う必要がない。また、決済センター110は、レコード会社101と独立した機関であるので、複数のレコード会社との間で業務委託の契約を行うことができ、顧客が選択できる音楽コンテンツの種類を豊富とすることができる。

【0043】

図6は、セキュアデコーダ202を有するプレーヤ201の信号処理の構成を示す。セキュアデコーダ201は、破線で示すように、1チップのICとして構成されたものである。また、セキュアデコーダ201は、所謂タンパーレジスタント(tamper resistant)の構成とされている。すなわち、外部からは、その内容が分からぬよう構成とされ、改ざんができない構成とされている。

【0044】

媒体1には、圧縮符号化され、また、暗号化された音楽データが記録されている。さらに、再生課金処理に必要なデータが圧縮符号化、暗号化されたデータに付随している。圧縮符号化、暗号化されたデータをコンテンツデータと称し、再生課金処理のためのデータを付随データと称する。但し、この発明では、圧縮符号化と暗号化との両方が施されていることは、必ずしも必要ではない。圧縮符号化のみでも、その復号方法が非公開であれば、著作権保護の目的を果たすことが可能である。

【0045】

媒体1としては、メモリカード、記録可能な光ディスク、読み出し専用の光ディスク等を使用できる。記録可能な媒体の場合では、上述したように、衛星ネットワーク、携帯電話ネットワーク、インターネット等のネットワークを介して配信されたデータをダウンロードすることができる。媒体1に記録されているコンテンツデータおよび付随データがインターフェース2を介してセキュアデコーダ202に供給される。セキュアデコーダ202からは、アナログオーディオ信号が出力される。アナログオーディオ信号は、アンプ等を介してスピーカ、ヘッドフォン等によって再生される。

【0046】

セキュアデコーダ202は、暗号化の復号器11と、圧縮符号化の伸長器12と、D/A変換器13とを有している。暗号化としては、DES(Data Encryption Standard)を使用できる。DESは、平文をブロック化し、ブロック毎に暗号変換を行うブロック暗号の一つである。DESは、64ビットの入力に対して64ビット(56ビットの鍵と8ビットのパリティ)のキーを用いて暗号変換を行い、64ビットを出力する。DES以外の暗号化を使用しても良い。例えばDESは、暗号化と復号化に同一の鍵データを使う共通鍵方式であるが、暗号化と復号化に異なる鍵データを使う公開鍵暗号の一例であるRSA暗号を採用しても良い。鍵データは、上述したように、認証が成立したユーザデバイス104に対して渡される。

【0047】

セキュアデコーダ202には、CPUを含む制御部14と、制御部14と外部のCPUとの通信を行うためのCPUインターフェース15と、メモリ部16と、聴取権データをプリペイドチャージャから受信し、再生ログをプリペイドチャージャに伝送するための通信部17およびアンテナ18とが設けられている。制御部14は、復号器11における復号の前段で分離された付随データを受け取り、復号化、伸長化を行うための制御を行う。

【0048】

また、通信部17およびアンテナ18は、非接触で聴取権データチャージャとの間で通信を行うためのものである。この通信は、認証がされることを条件として、暗号化されたプロトコルを使用してなされる。データのみならず、電力をチャージャから受信可能とされているので、プレーヤ201全体の電源がオフであっても、聴取権データの受信と、再生ログの送信とを行うことができる。受け取った聴取権データは、メモリ部16に格納される。さらに、プレーヤ201の再生ログもメモリ部16に記憶される。メモリ部16は、電源オフとされても、その記憶内容が保持される不揮発性メモリである。

【0049】

なお、コピー出力が復号器11からセキュアデコーダ202の外部に出力する

ことが可能とされている。出力するか否かは、制御部14により制御される。出力されるコピー出力は、付随情報とコンテンツデータである。さらに、復号器11および伸長器12は、制御部14の指示に基づいて、復号処理および伸長処理をそれぞれ省略する機能を有している。それによって、元々暗号化および圧縮符号化がされていないオーディオデータ（リニアPCM）を再生することが可能とされている。

【0050】

プレーヤ201の全体の動作を制御するために、21で示すシステムコントローラが備えられている。システムコントローラ21は、CPUで構成され、セキュアデコーダ202内の制御部14と通信を行うことによって、セキュアデコーダ202の動作を制御する。また、システムコントローラ21とバスを介して操作部22、ディスプレイ23、メモリ部24、モデム25が接続されている。さらに、システムコントローラ21が媒体1の再生動作、並びに媒体インターフェース2の動作を制御する。

【0051】

操作部22は、ユーザが操作するスイッチ、キー等であり、プレーヤ201の動作を制御する指示を発生する。ディスプレイ23は、例えば液晶からなるもので、プレーヤ201の動作を制御するためのメニューを表示したり、動作状態を表示するために使用される。メモリ部24は、システムコントローラ21内のメモリの容量が少ないために設けられた外部メモリである。モデム25は、公衆回線と接続され、外部とのデータの通信に使用される。例えば、セキュアデコーダ202のメモリ部16内の再生ログをメモリ部24に転送することによって、残りの再生可能回数または再生可能時間をディスプレイ23に表示したり、再生ログをモデム25を介して送信することが可能とされている。さらに、聴取権データをモデム25を介して受信することも可能である。

【0052】

ユーザが操作部22を操作することによって、媒体1内の所望のコンテンツの再生を指示する。そのコンテンツが再生に関して無料のものであれば、セキュアデコーダ202を通じてアナログ出力が発生しても、メモリ部16に格納されて

いる聴取権データが変更されない。若し、再生したコンテンツが再生課金の対象である場合には、メモリ部16内の聴取権データが変更される。

【0053】

課金処理としては、種々のタイプが可能である。課金処理としては、大きく分けて、買取型と、グロスに視聴料金をとるタイプと、セキュアデコーダで暗号の復号化を行うごとに視聴料金を課する度数タイプとがある。買取型は、一旦買取った後では、再生処理に対して課金されないタイプである。グロスに視聴料金をとるタイプは、視聴料金をまとめて支払う月極めタイプ、視聴期間、視聴時間を限定するタイプ等である。

【0054】

セキュアデコーダで暗号の復号化を行うごとに視聴料金を課す度数タイプとして、幾つかの形態が可能である。第1の形態は、予め設定された金額（プリペイドカード、電子マネー）または度数からコンテンツの再生処理の度に、金額または度数を減算するものである。残高または残り度数が不足する場合には、再生ができなくなる。第2の形態は、コンテンツの再生処理の度に、金額または度数が加算されるものである。予め設定した金額または度数に累積金額または累積度数が達すると、再生ができなくなる。第3の形態は、コンテンツの再生時間に応じて、度数または金額が加算または減算されるものである。

【0055】

金額または度数は、一定のものであっても良く、また、コンテンツに応じて重み付けされたものでも良い。また、課金処理は、コンテンツの1タイトル（音楽の例では、1曲）またはコンテンツの複数タイトル（音楽の例では、アルバム）と対応して行われる。

【0056】

また、コンテンツの再生処理の定義の方法としては、コンテンツ全体を再生した場合に、再生を行ったものとしても良いし、また、コンテンツの再生時間が所定時間以上の場合を再生を行ったものとしても良い。さらに、普及・流通を促進するためのプロモーション用のコンテンツの再生に対しては課金されない。また、課金の対象となるコンテンツであっても、例えばコンテンツの先頭部分例えば

先頭から10秒間の再生を無料としたり、コンテンツのハイライト部分のみの再生を無料としても良い。このように、再生処理に対して課金されるコンテンツと、再生処理が無料のコンテンツとが混在する場合に、付随情報によって課金／無料が識別される。

【0057】

付随情報は、コンテンツデータ（圧縮符号化および暗号化されたコンテンツ例えばオーディオデータ）の前に付加されたデータである。付随情報は、必要に応じて暗号化される。また、記録可能な媒体には、コンテンツデータの前に付加されて記録されるか、または媒体1のデータ管理用領域に記録される。読み出し専用の媒体の場合には、データ管理領域に付随情報が記録される。光ディスクの場合では、一般的にディスクの最内周側の領域に管理領域が設けられる。メモリカードの場合には、例えば音楽データの1曲を1ファイルとして扱うようにしたファイル管理データが規定される。

【0058】

付随データには、課金されるコンテンツか、無料のコンテンツかを指示する課金識別子、並びに上述したような買取型、グロス型、度数型等の課金タイプを区別し、各課金タイプにおける課金条件を指示する再生条件ラベルが含まれる。一例として、買取型の場合では、買取価格のデータが再生条件ラベルに記述され、グロス型の再生回数を制限する場合では、再生回数のデータが再生条件ラベルに記述され、グロス型の再生期間を制限する場合では、再生期間のデータ（1日、1週間、1ヶ月等）が再生条件ラベルとして記述され、度数型の場合では、度数のデータ（1円／2分、1円／1分、1円／30秒、・・・）が再生条件ラベルとして記述される。さらに、課金を前提としているコンテンツであっても、無料で視聴できる場合の条件を再生条件ラベルに記述することもできる。

【0059】

また、付随情報中に、コンテンツデータの圧縮符号化の種類を示すための情報、暗号の種類および暗号のパラメータを示すための情報、チャンネル数の情報、ビットレートの情報等を記録しても良い。

【0060】

さらに、付随情報中には、CD、MD、記録可能な光ディスク、不揮発性メモリを含むメモリカード等の媒体を一意に識別可能とするためのメディアID例えばシリアル番号が含まれる。さらに、付随情報中には、デコーダIDが配置される。デコーダIDは、ユーザの端末、ユーザのプレーヤ等に内蔵されているセキュアデコーダを一意に識別可能とするためのID例えばシリアル番号である。

【0061】

次に、図7のフローチャートを参照してプレーヤ201（図6参照）においてなされる課金処理の一例について説明する。この処理は、セキュアデコーダ202内の制御部14およびシステムコントローラ21によってなされるものである。最初のステップS1は、媒体1に再生しようとするコンテンツが存在しているような再生スタンバイ状態である。具体的には、EMDにより配信されたコンテンツが媒体1に格納されている場合、媒体1に既にコンテンツが記録されている場合等が再生スタンバイに該当する。ステップS2では、ユーザが操作部22の再生ボタンを押すことによって再生指示がされたかどうかが決定される。

【0062】

ステップS2の結果が否定であることは、コピーの操作を意味するものとされている。ステップS3において、無料再生用コンテンツのコピーか否かが決定される。無料再生用コンテンツとは、再生が課金されないコンテンツを意味する。付随情報中に含まれる識別子を参照してステップS3の決定がなされる。無料再生用コンテンツであれば、著作権保護のために、セキュアデコーダ202からの暗号が復号化されたコピー出力が禁止される（ステップS4）。

【0063】

若し、無料再生用コンテンツのコピーでない、すなわち、課金再生用コンテンツのコピーであるとステップS3で決定されると、課金再生用コンテンツのコピーがセキュアデコーダ202から出力される（ステップS5）。課金再生用コンテンツのコピーは、自由になれる。但し、このコピー出力は、付随情報と暗号化、圧縮符号化がされたデータである。

【0064】

ステップS2において、再生動作が指示されたものと決定されると、ステップS6において、課金処理を受け入れるか否かが問われる。例えばプレーヤ201のディスプレイ23にメッセージが表示され、ユーザが操作部22の操作によって回答するようになされる。ユーザが課金処理を受け入れない場合には、無料再生ができない（ステップS7）。但し、再生条件ラベルによって指示される部分的無料再生例えば曲の先頭部分またはハイライト部分の再生を無料で行うことが許される場合もある。課金処理を受け入れる場合には、ステップS8において、ディスプレイ23上に、現に再生しようとするコンテンツに関する再生課金条件が提示される。付随情報中の再生条件ラベルの情報に基づいて課金条件の提示がなされる。

【0065】

ステップS9では、課金タイプが買取型かどうかが決定される。買取型であれば、買取用の課金がなされる（ステップS10）。そして、ステップS11において、セキュアデコーダ202の復号器11では、鍵を使用して暗号を復号化し、ステップS12において、無料再生を行う。この場合、無料再生するコンテンツのコピーが禁止される。但し、ムーブ、すなわち、コピーと異なり元のデータが残らない処理は、可能である。

【0066】

ステップS9において、買取型でないと決定されると、ステップS13においてグロス型例えば月極型かどうかが決定される。月極契約が存在しているときは、ステップS14において、契約された楽曲か否かが決定される。そうであれば、ステップS15において、無料再生がなされる。課金再生用コンテンツのコピーは自由に行うことができる。

【0067】

ステップS13において、月極型でないと決定されると、そのコンテンツは、度数型で課金されるものと決定される。そして、ステップS17において、暗号の復号化がなされ、ステップS18において、課金再生がなされる。課金再生では、上述したように、「再生の度数」、「再生時間等に応じて課金される」また、「課金

再生用コンテンツのコピーは、自由にできる。さらに、ステップS14において、月極契約の範囲内でないと決定された場合も、課金再生の処理（ステップS17、ステップS18）がなされる。

【0068】

図8は、聴取権データチャージャ204の一例の構成を示す。チャージャ204は、例えば持ち運び可能な可搬型の構成とされている。301がチャージャ全体を制御するCPUを示し、302が暗号化・復号化モジュールを示し、303がディスプレイ（例えば液晶ディスプレイ）を示し、304がユーザによって操作されるキー・ボタンを示す。ディスプレイ303には、チャージャの動作に関連するメニュー、課金処理条件等が表示される。暗号化・復号化モジュール302は、再生ログ等の送信時の暗号化の処理と、聴取権データ等の受信時の暗号の復号化の処理とを行う。305は、データチャージャ個別IDを示す。データチャージャ個別ID305は、例えば再生ログと共に決済センターへ送信され、データチャージャと再生ログの対応関係が分かるようになされる。

【0069】

また、決済センター（図2中の決済センター110）との通信のために、モデム306およびUSB(Universal Serial Bus)通信モジュール307が設けられている。モデム306によって、電話回線を介して決済センターとの通信が行われ、決済センターから聴取権データを受け取り、また、決済センターに対して再生ログを送信することができる。USB通信モジュール307を使用し、パーソナルコンピュータおよびインターネットによって同様に決済センターとの通信が可能である。

【0070】

決済センターからデータチャージャ204が受信した聴取権データが聴取権データメモリ308に格納される。また、プレーヤ201のセキュアデコーダ202から受け取った再生ログが使用状況メモリ309に格納される。必要に応じてチャージャ204のログが再生ログに付加されたログデータが決済センターへ送信される。メモリ308および309は、電源オフとされても、その記憶内容が保持される不揮発性メモリである。

【0071】

また、非接触通信モジュール310およびアンテナ311は、非接触でプレーヤ201との間で通信を行うためのものである。この通信は、認証がされることを条件として、暗号化されたプロトコルを使用してなされる。データのみならず、セキュアデコーダ202が動作するのに必要な電力をプレーヤに送信可能とされている。したがって、プレーヤ202のメインの電源がオフであっても、聴取権データおよび再生ログの授受が可能とされている。アンテナ311以外にライン接続用の端子も備えられている。なお、非接触通信モジュール310およびアンテナ311またはラインを使用して聴取権データ販売端末206との通信を行うようになされる。

【0072】

図9は、セキュアデコーダ202のより詳細な構成、すなわち、課金処理に関する機能的構成を示す。図8に示される構成要素と対応する部分には、同一符号を付して示す。媒体1からの暗号化され、且つ圧縮符号化されたコンテンツデータと付随データとからなる再生データが復号器11に供給される。復号器11には、媒体1を一意に識別可能とするためのメディア個別IDも供給される。復号器11によって暗号の復号がなされる。

【0073】

復号器11の出力データが再生条件ラベル検出部401に供給され、付随データ中の再生条件ラベルが検出される。検出された再生条件ラベルがセキュアデコーダ202の処理に使用される。伸長器12では、圧縮符号化の復号がなされる。伸長器12の出力データがウォーターマーク検出部402に供給される。ウォーターマーク検出部402は、アナログ出力時に付加したウォーターマークを検出し、検出されたウォーターマークと再生条件ラベルとに基づいて、再生条件ラベルが改ざんされたか否かをチェックする。

【0074】

403は、聴取権カウンタを示す。聴取権カウンタ403においては、再生データを復号する度に、聴取権データに対して変更を加える。例えばメモリ部16に格納されている聴取権データ例えば度数データを減算する処理を行う。メモリ

部16に格納される聴取権データは、アンテナ18（またはライン）と通信モジュール17とによって、上述した聴取権データチャージャ204から送信されたものである。通信モジュール17内には、再生ログ等の送信時の暗号化と、聴取権データの受け取り時の復号化のためのモジュールが設けられている。など、ここでは、楽曲データを取り扱うために、聴取権の用語を使用しているが、映像データを含めて考えた時には、聴取権の代わりに視聴権の用語が使用される。

【0075】

聴取権カウンタ404において、聴取権に関する処理がされると、ウォーターマーク付加部404において、出力されるデータに対してウォーターマークが付加される。ウォーターマークは、楽曲データに存在する冗長な部分例えば出力されるオーディオデータの下位のビットを利用してことでウォーターマークを付加できる。付加されたウォーターマークは、アナログ信号に変換しても残り、且つウォーターマークを除去することが不可能か、非常に困難なものである。付加されるウォーターマークは、再生条件ラベルの全体または一部のデータと、デコーダ個別ID405の情報を含むものである。ウォーターマークが付加されたデータがD/A変換器13によってアナログ出力に変換され、セキュアデコーダ202の外部へ出力される。上述したウォーターマーク検出部402は、このように付加されたウォーターマークを検出するものである。

【0076】

セキュアデコーダ202がICカードのインターフェースを持ち、また、聴取権データチャージャ204が決済センターまたは金融会社から電子マネーを受け取り、受け取った電子マネーをセキュアデコーダ202が備えているインターフェースを介してICカードに記録するようにしても良い。すなわち、聴取権データの書き込みに対して、オプショナルなものとして電子マネーの記録装置としての機能を持たせることができる。

【0077】

聴取権カウンタ403によってなされる課金処理の概略を説明する。一例として、課金処理が度数型で行われる場合に適用される例について説明する。すなわち、予め設定された度数から楽曲データの再生処理の度に、一度数を減算したり、

楽曲データの再生処理の度に、度数が加算されたり、楽曲データの再生時間に応じて、度数が加算または減算される。再生データ例えば楽曲データから再生条件ラベル検出部401が再生条件ラベルを抜き出す。再生条件ラベルには、課金条件が含まれている。また、楽曲データが伸長器12から出力されている期間を30秒、1分等の単位時間によって計測し、計測された時間の長さに対して課金される。すなわち、単位時間が一つの度数に対応される。

【0078】

計測された時間と再生条件ラベルに基づいて、聴取権カウンタ403によって度数が制御される。すなわち、再生条件ラベルを参照して、メモリ部16に格納されている聴取権データに対して減算または加算処理を行い、聴取権データを書き換える。また、再生時間または再生期間を再生条件としている場合には、タイマー／カレンダーに対して、再生時間の累積処理または現在日時と再生可能期限との照合処理がなされる。

【0079】

聴取権カウンタ403または他の制御部は、さらに、再生可能かどうかを判断する。例えば再生した度数を減算して、残りが0となると、再生不可能と判断する。また、累積度数が設定された度数に到達したり、再生時間の累積が設定された時間に到達したり、現在の日時が再生期限を越えたりすると、同様に、再生不可能と判断する。再生可能な場合には、楽曲データが出力され、一方、再生不可能な場合には、楽曲データの出力が禁止される。

【0080】

この発明の一実施形態では、上述した決済センター110または聴取権データ販売機206から聴取権データチャージャ204に聴取権データを渡す場合、並びに聴取権データチャージャ204からプレーヤ201に聴取権データを渡す場合において、セキュリティを高くするために、発行元または管理者である決済センター110がセキュリティを定期的または非定期で変更可能とするものである。

【0081】

図10は、聴取権データを渡す時のデータフォーマットの一例を示す。図10

Aが1フレーム(256ビット)の構成を示す。フレームの先頭にヘッダ(16ビット)が位置する。次に、開始年月日(YMD)(24ビット)と終了年月日(YMD)とが順に配置される。聴取権データの有効な期間がこれらのデータによって規定される。年が15ビットのバイナリ表記で表され、月および日がそれぞれ4ビットおよび5ビットのバイナリ表記で表される。開始日または終了日を決めていない場合には、24ビットを全て0のビットとする。聴取権データの有効期間を予め定めておくことによって、終了年月日を明示しなくても良い。

【0082】

続いて6ビットのタイプが暗号化の種類を表す。DES(Data Encryption Standard)による暗号化、RSAによる暗号化等が使用できる。DESは、平文をブロック化し、ブロック毎に暗号変換を行うブロック暗号の一つである。DESは、64ビットの入力に対して64ビット(56ビットの鍵と8ビットのパリティ)のキーを用いて暗号変換を行い、64ビットを出力する。DESは、暗号化と復号化に同一の鍵データを使う共通鍵方式であり、RSAは、暗号化と復号化に異なる鍵データを使う公開鍵暗号の一つである。これら以外の暗号を使用することもできる。

【0083】

暗号化の種類の情報の後に、10ビットの鍵長が配される。鍵長は、暗号化を復号するための鍵の長さを示す。鍵長の後に鍵(図10Aの例では、1024ビット)が配置される。そして、32ビットのEDC(エラー検出コード)用の鍵と、それに続いて256ビットの暗号化された聴取権データMPが配される。

【0084】

データMPの後に64ビットのEDCと128ビットのECC(エラー訂正コード)とが順に配置され、1フレームのデータ配置が完結する。EDCとして、CRC(cyclic redundancy code)等が使用され、ECCとして、例えば(198, 182, 17)のリードソロモンコード(Reed-Solomon code)が使用される。ECCは、ヘッダから始まり、EDCまでのデータのエラーの有無を検出する。EDCは、開始YMDから始まってデータMPまでのエラーを訂正する。

【0085】

EDCの多項式として、例えば $(x^{16} + x^{12} + x^5 + x + 1) \ (x^{16} + x + 1)$ $\ (x^{32} + \underline{x^{31}} + \underline{x^{30}} \dots + \underline{x^4} + \underline{x^3} + \underline{x^2} + \underline{x} + 1)$ を使用する時に、下線部分の係数の値が EDC用鍵（64ビット）に配されている。したがって、データMPの暗号化を復号するためには、ECCによるエラー訂正を行い、EDC用の鍵を得、次に、EDCによるエラー検出を行い、エラー検出の結果がOK（エラー無し）であれば、データMPを復号できる。このようにして、暗号化された聴取権データMPのセキュリティを高くすることができる。さらに、必要に応じて、全体的にスクランブル（例えば最大長周期（M）系列を使用したランダム化）を行うようにしても良い。

【0086】

図10Bは、聴取権データの送信のための他のデータ構成例を示す。図10Aに示すデータ配列（影を付けて示す）の後に暗号化を行うためのソフトウェア（例えば4Mビット）が配され、さらに、暗号化のソフトウェアに対するEDCソフトウェア（例えば1Mビット）が配される。EDCソフトウェアは、例えば2Kバイト単位でECCブロック化されている。図10Bのデータ構成は、暗号化の復号用ソフトウェアも一緒に送るようにしたものである。

【0087】

上述した聴取権データの伝送フォーマットは、重要な部分が256ビットのみであるが、その部分が暗号化、EDC、ECCにより守られている。それによつて、聴取権データを不正に入手したり、改ざんすることを防止できる。さらに、この発明の一実施形態では、図10Aに示すフォーマットにおける開始YMD、鍵長、鍵、EDC用鍵の内の少なくとも1つを決済センター110が定期的に、或いは非定期的に変更可能としている。それによって、聴取権データが改ざんされたり、不正利用される疑いがある時、またはこれらを未然に防ぐことができる。例えば聴取権データの暗号化の解読方法がインターネット上で公開されるような事態にも直ちに対処することができる。また、図10Bに示すフォーマットでは、さらに、暗号化ソフトウェアおよび／またはEDCソフトウェアを変更することができるので、セキュリティを強力とすることができます。

【0088】

このように、聴取権データのセキュリティを変更した後では、旧いセキュリティの聴取権データが無効となり、旧い聴取権データでは、コンテンツを利用できないようになされる。この場合、使えなくなつた旧い聴取権データを所有している者は、旧い聴取権データを新たな聴取権データへ交換すること決済センター110に要求することができる。この交換システムの代わり、またはこのシステムに加えて、ユーザが聴取権データを使い切ったために、聴取権データ入手する時に、残っている旧い聴取権データが新しい聴取権データに自動的に交換されるシステムが採用される。

【0089】

図11は、コンテンツの再生と聴取権データのセキュリティとが連携した処理を示すフローチャートである。一例として、聴取権データのセキュリティが1年に1回定期的に変更される。ステップS1において、暗号化コンテンツの再生を行おうとすると、聴取権データが1年以内かどうかがステップS2で決定される。セキュアデコーダがカレンダーを内蔵しており、ステップS2の決定を行うことができる。この場合、1年に対してある程度の周知期間 α を付加し、1年+ α を経過した時に聴取権データを無効とするようにしても良い。

【0090】

1年以上経過している場合には、コンテンツの再生が停止する（ステップS3）。1年以内の聴取権データの場合には、聴取権データが最低単位（a）以上かどうかがステップS4で決定される。最低単位の聴取権データが残っていない場合には、再生が停止し、その旨のメッセージが提示される（ステップS5）。音声のメッセージを発生しても良い。また、ステップS3においても同様に、メッセージを提示するようにしても良い。

【0091】

ステップS4において、聴取権データが最低単位a以上残っていると決定されると、聴取権データの1単位が消費される。聴取権データが実際に消費されたかどうかがステップS6において監視される。例えば、聴取権データの消費する前の状態と、消費した後の状態とが比較される。若し、不正な改ざん等によって、

聴取権データが消費されないときは、ステップS5の再生停止、メッセージの提示に移行する。ステップS6において、聴取権データの消費が確認できると、ステップS7において、コンテンツの暗号が復号され、コンテンツが再生される。再生の停止、メッセージの提示と共に、またはこれらの処理に代えて、決済センター110に対して、聴取権データのセキュリティチェックの結果が正しくないことを通知するようにしても良い。

【0092】

コンテンツの再生が終了したかどうかがステップS8において決定される。再生の終了は、通常は、ユーザが再生の停止指示を行うことでなされる。再生が継続する限り、ステップS4～S8の処理が繰り返される。例えばユーザがコンテンツを再生している時間に応じて、聴取権データが消費される。そして、ステップS8において、再生が終了したものと決定されると、再生が終了する（ステップS9）。

【0093】

図11の例は、再生時間の単位時間に応じて聴取権データが減少する課金処理であるが、前述したような再生時間に応じて度数が加算される場合でも、同様にこの発明を適用できる。

【0094】

また、利用しようとするコンテンツ例えば楽曲データが付随する情報中に年月一日データ持ち、楽曲データと聴取権データとの間で、年月日データを照合し、聴取権データの年月日に応じて再生可能なコンテンツを識別することもできる。

【0095】

さらに、新旧の聴取権データの入れ替えを行うようにしても良い。例えば100-0-0度数（ポイント）が入るデータチャージャの場合で、残りが3-0-0度数で、5000度数を補充して欲しい時に、残りを含めた（3000+5000）度数を新たな聴取権データとするようにしても良い。よりさらに、再生ログを伝送するシステムにおいては、不正に聴取を行っても、再生ログが許容量を越えると、再生を禁止するようにできる。そのような事態が生じた時に、決済センターに連絡がなされる。その連絡時に、残っている聴取権データを吸い上げるように

しても良い。よりさらに、再生ログを収集するシステムでは、電子マネー、電子利用権を送信した履歴と、再生ログの使用履歴とを比較することによって、不正を発見するようにしても良い。

【0096】

なお、上述した実施形態では、主としてオーディオコンテンツについて説明したが、オーディオ以外のビデオデータ、静止画像データ、文字データ、コンピュータグラフィックデータ、ゲームソフトウェア、およびコンピュータプログラム等のコンテンツに対しても、上述したのと同様にこの発明を適用することができる。

【0097】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、この発明によれば、セキュリティを変更するので、電子マネー、電子利用権のセキュリティを向上することができる。例えば偽造の電子マネー、電子利用権が出回ったり、不正利用方法が公開されたりしても、直ちに対応することができる。また、定期的にセキュリティを変更することによって、不正利用、偽造のおそれを未然に防ぐことができる。さらに、セキュリティチェックの結果が正しくない時には、コンテンツの利用を禁止することで、電子マネー、電子利用権のみならず、コンテンツの著作権を強力に保護することができる。よりさらに、再生ログを収集するシステムでは、渡した電子マネー、電子利用権と再生ログから不正を発見することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

この発明の一実施形態のシステム全体の概略を示すブロック図である。

【図2】

この発明の一実施形態における聴取権データに関する説明のためのブロック図である。

【図3】

この発明の一実施形態における聴取権データチャージャに関する説明のためのブロック図である。

【図4】

この発明の一実施形態における聴取権データに関する説明のためのブロック図である。

【図5】

この発明の一実施形態における決済センターの果たす機能に関する説明のためのブロック図である。

【図6】

この発明の一実施形態におけるプレーヤの一例のブロック図である。

【図7】

この発明の一実施形態における課金処理の一例を説明するためのフローチャートである。

【図8】

この発明の一実施形態における聴取権データチャージャの一例のブロック図である。

【図9】

この発明の一実施形態におけるセキュアデコーダのより詳細なブロック図である。

【図10】

この発明の一実施形態における聴取権データのデータ構成の一例の略線図である。

【図11】

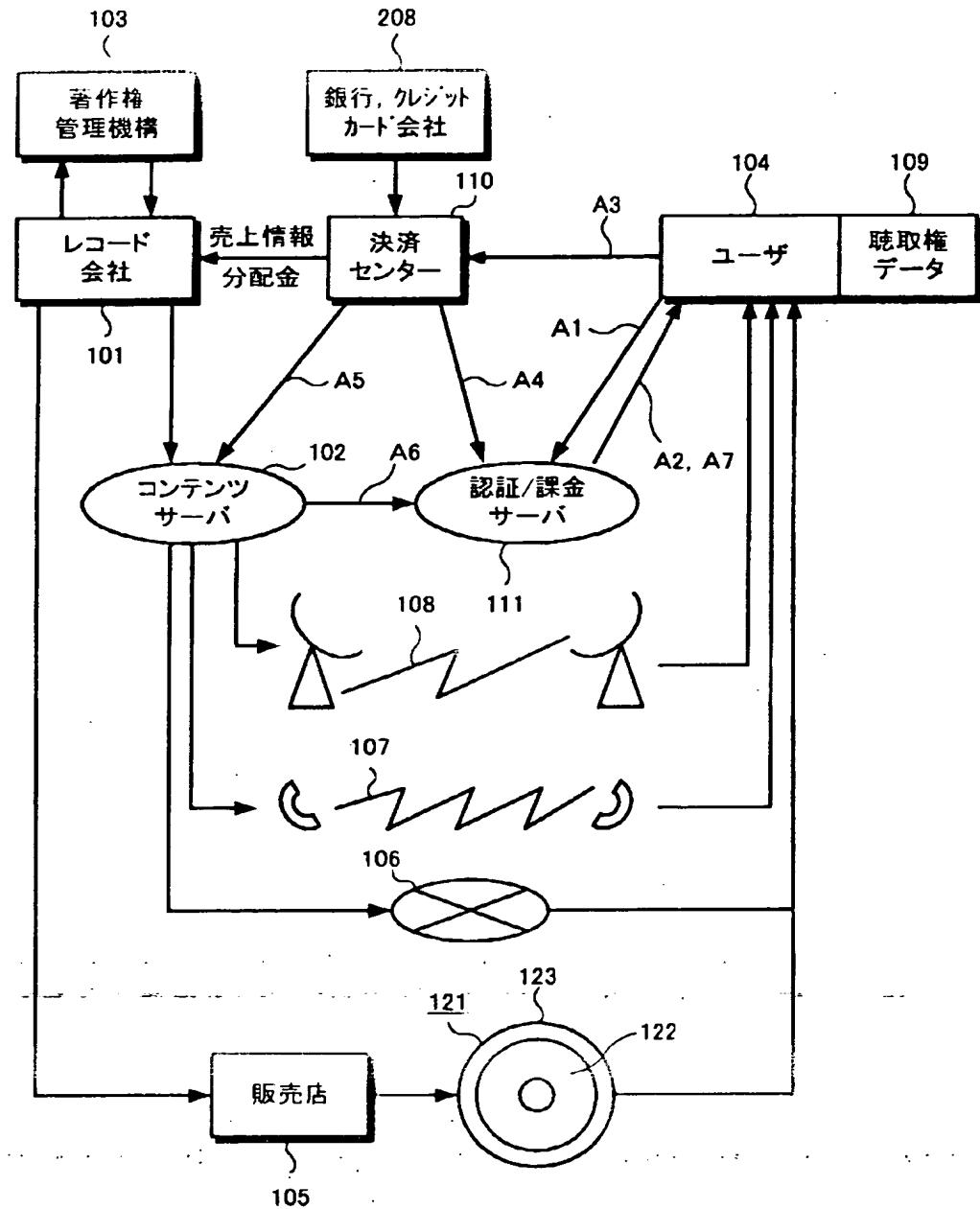
この発明の一実施形態における聴取権データのセキュリティチェックとコンテンツ再生との関連する処理を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

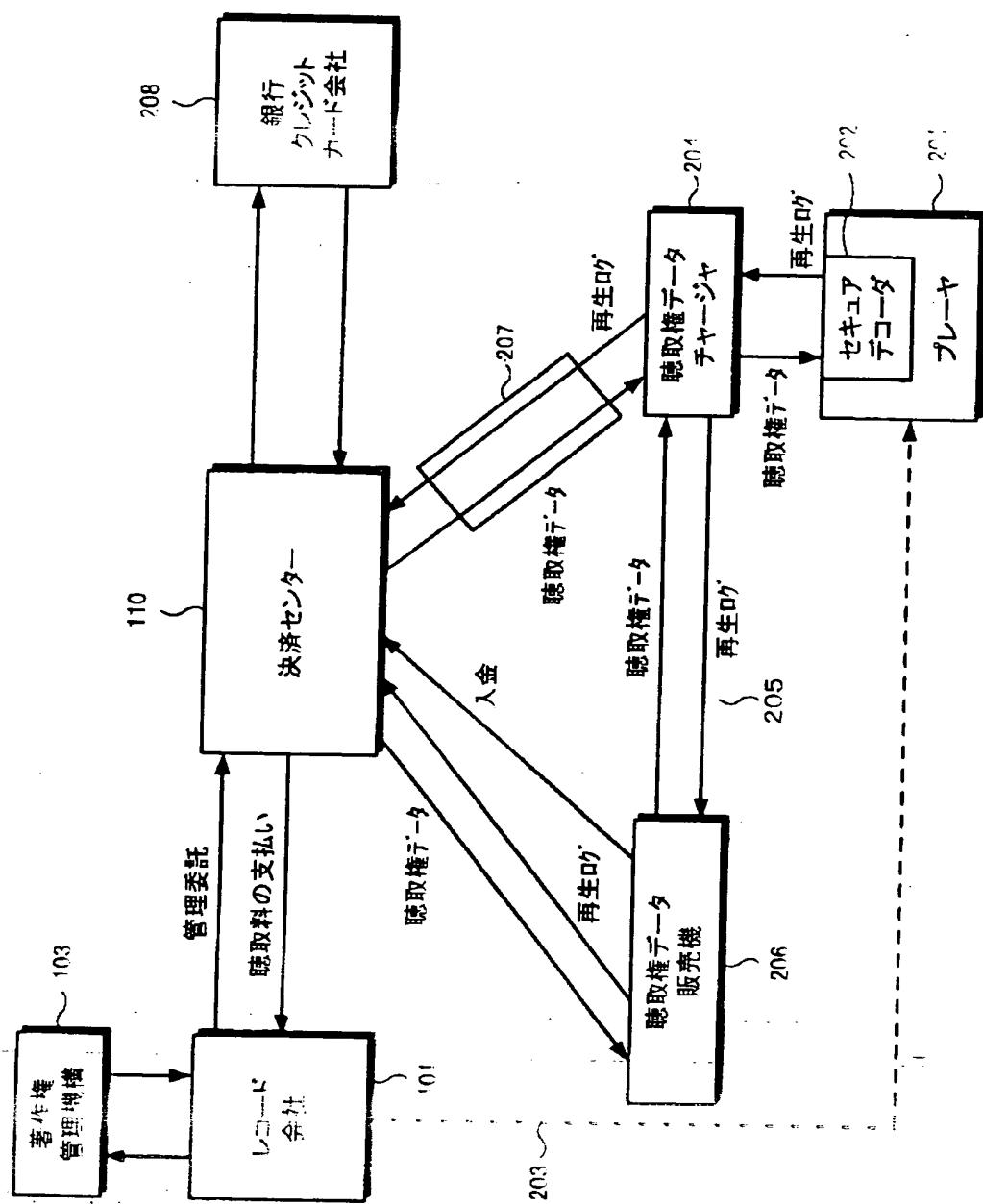
- 1 ……コンテンツの格納された媒体、11……暗号化の復号器、12……圧縮符号化の伸長器、21……システムコントローラ、101……レコード会社、103……著作権管理機構、104……ユーザデバイス、109……聴取権データ、110……決済センター、201……プレーヤ、202……セキュアデコーダ、204……聴取権データチャージャ

【書類名】 図面

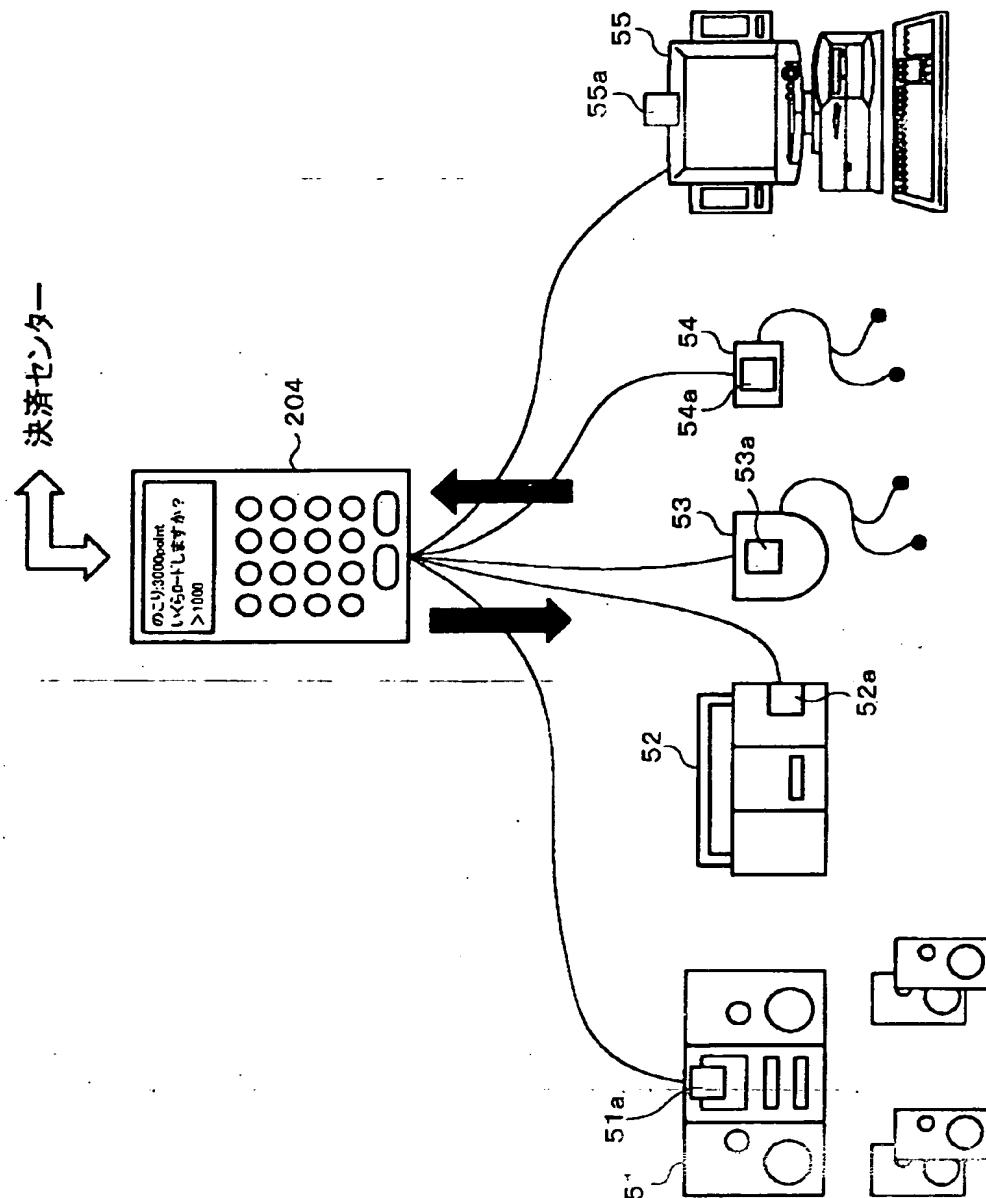
【図1】



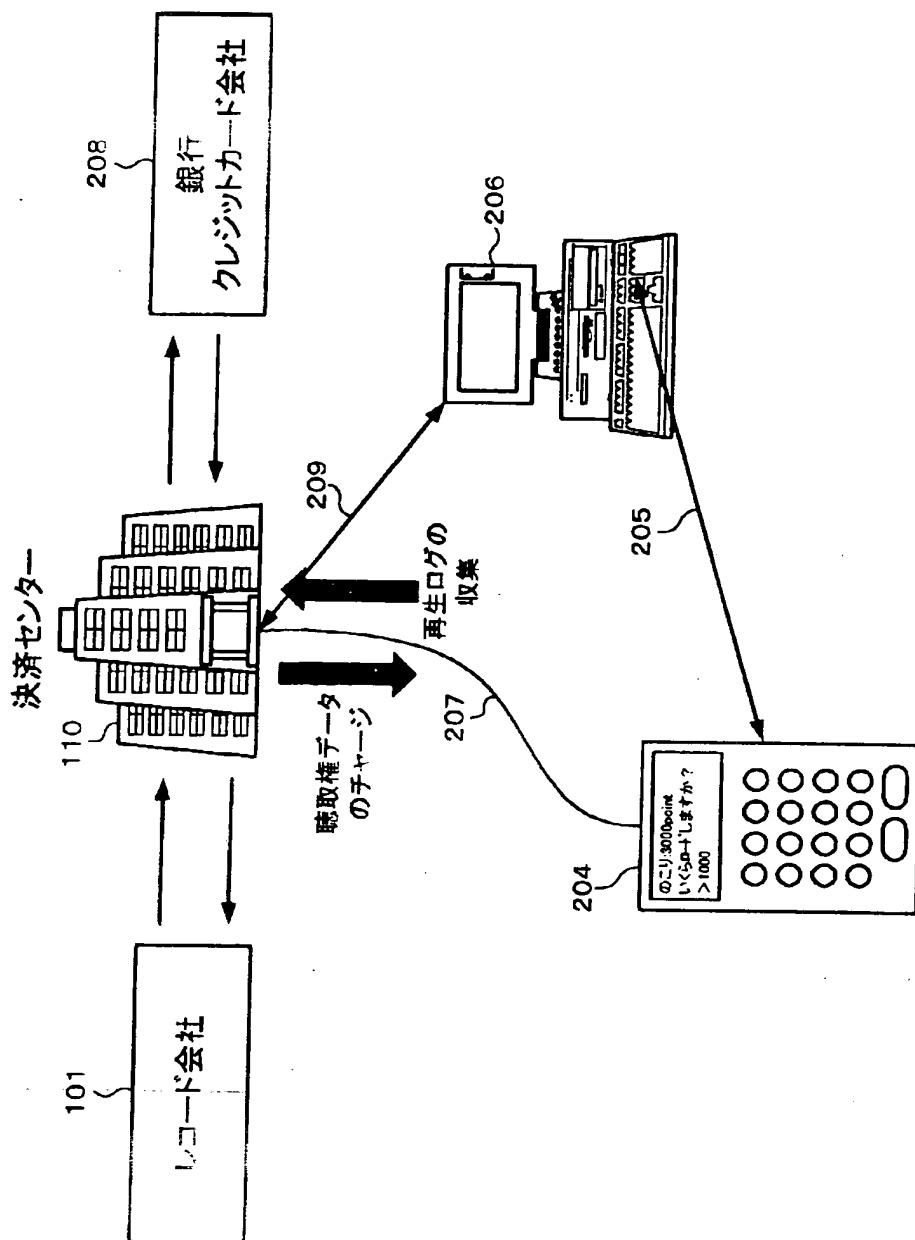
【図2】



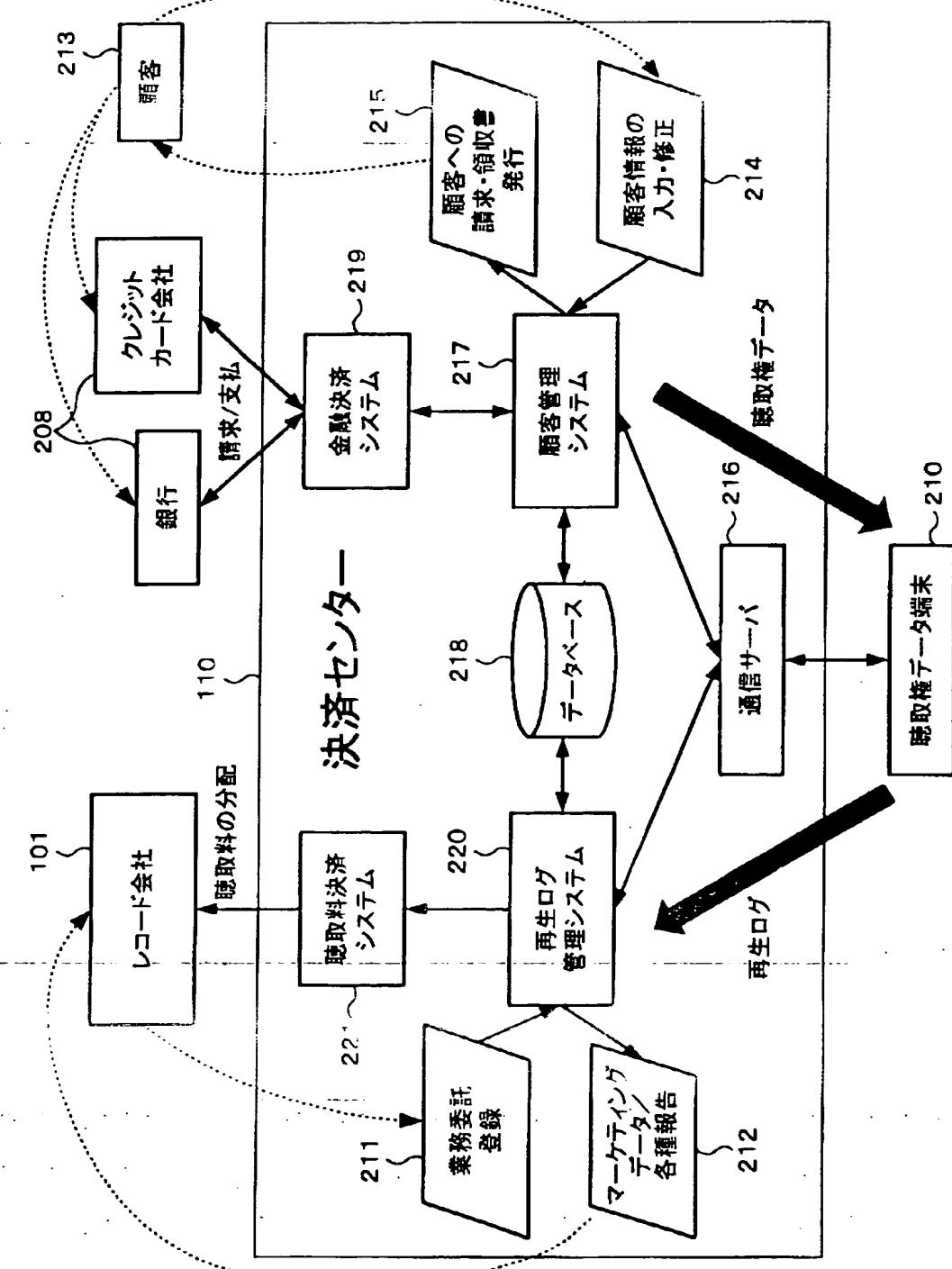
【図3】



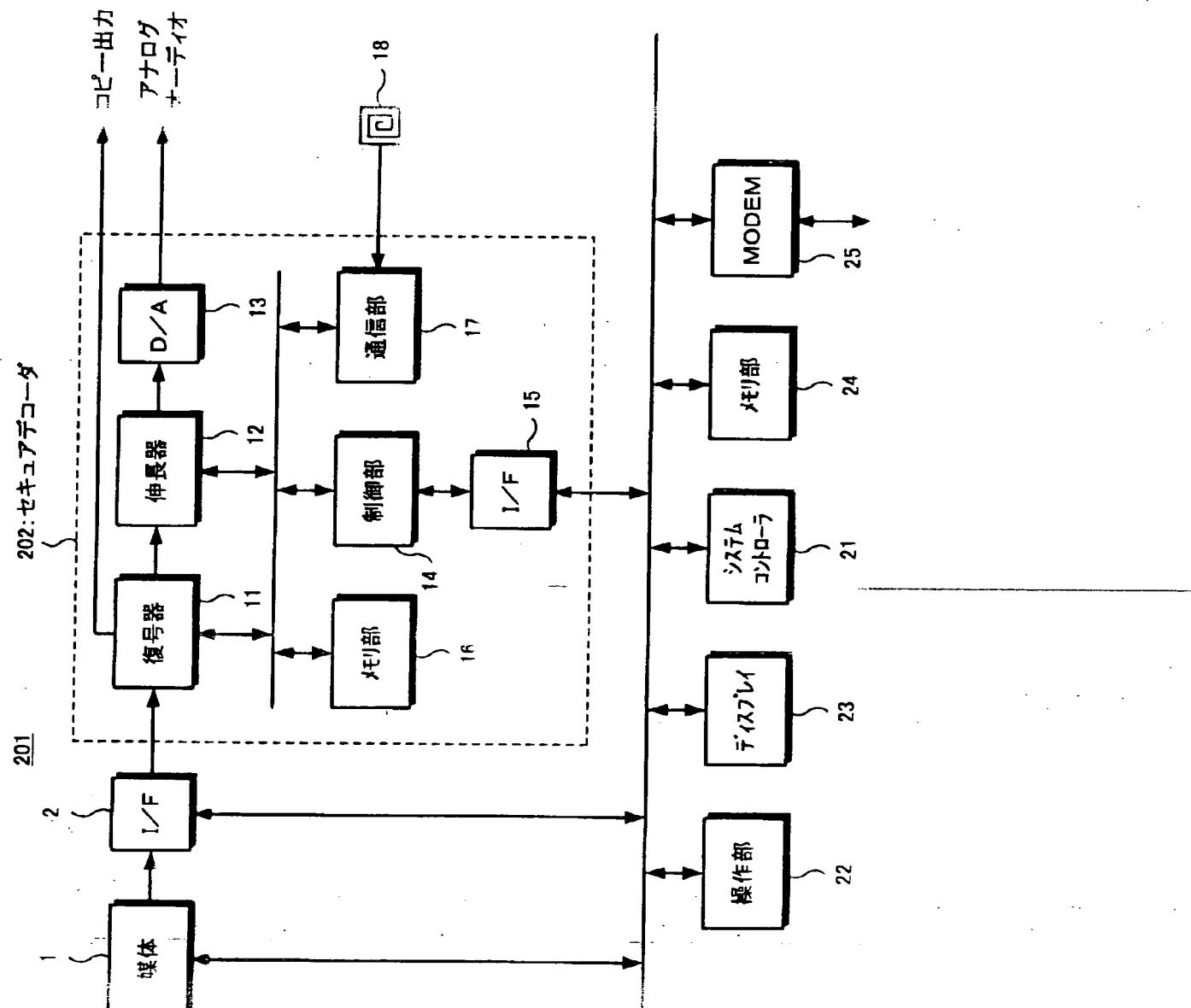
【図4】



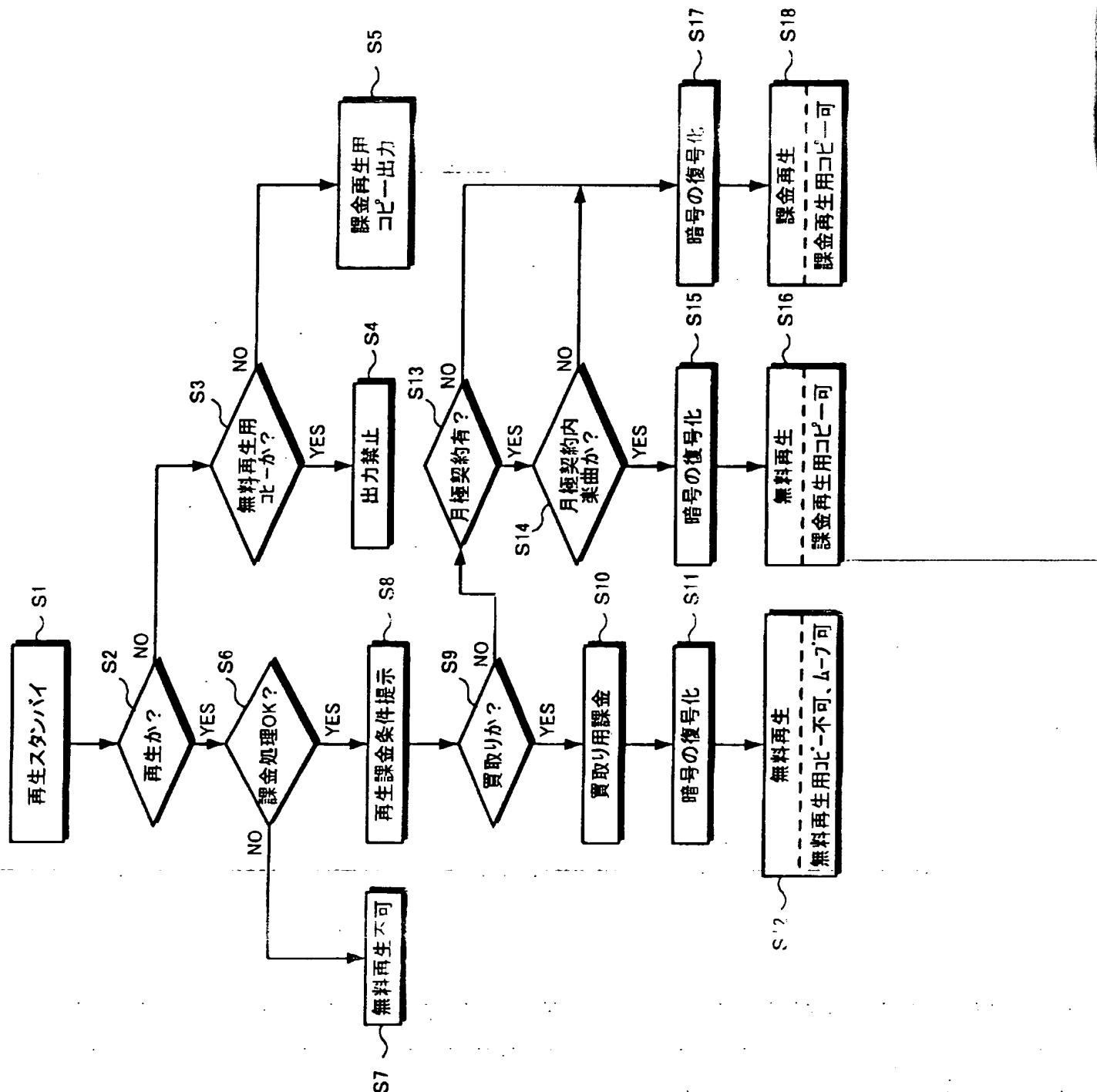
【図5】



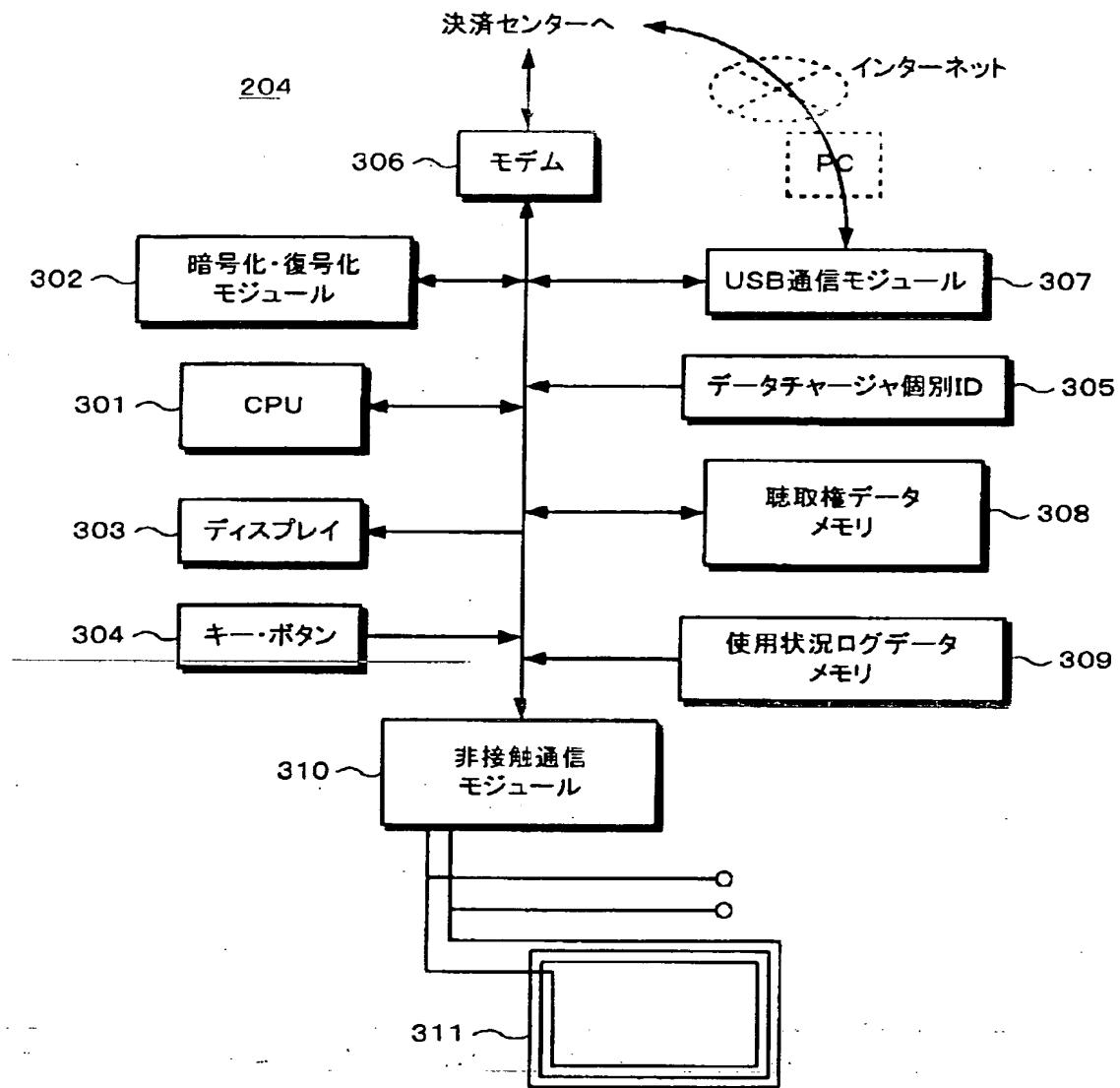
【図6】



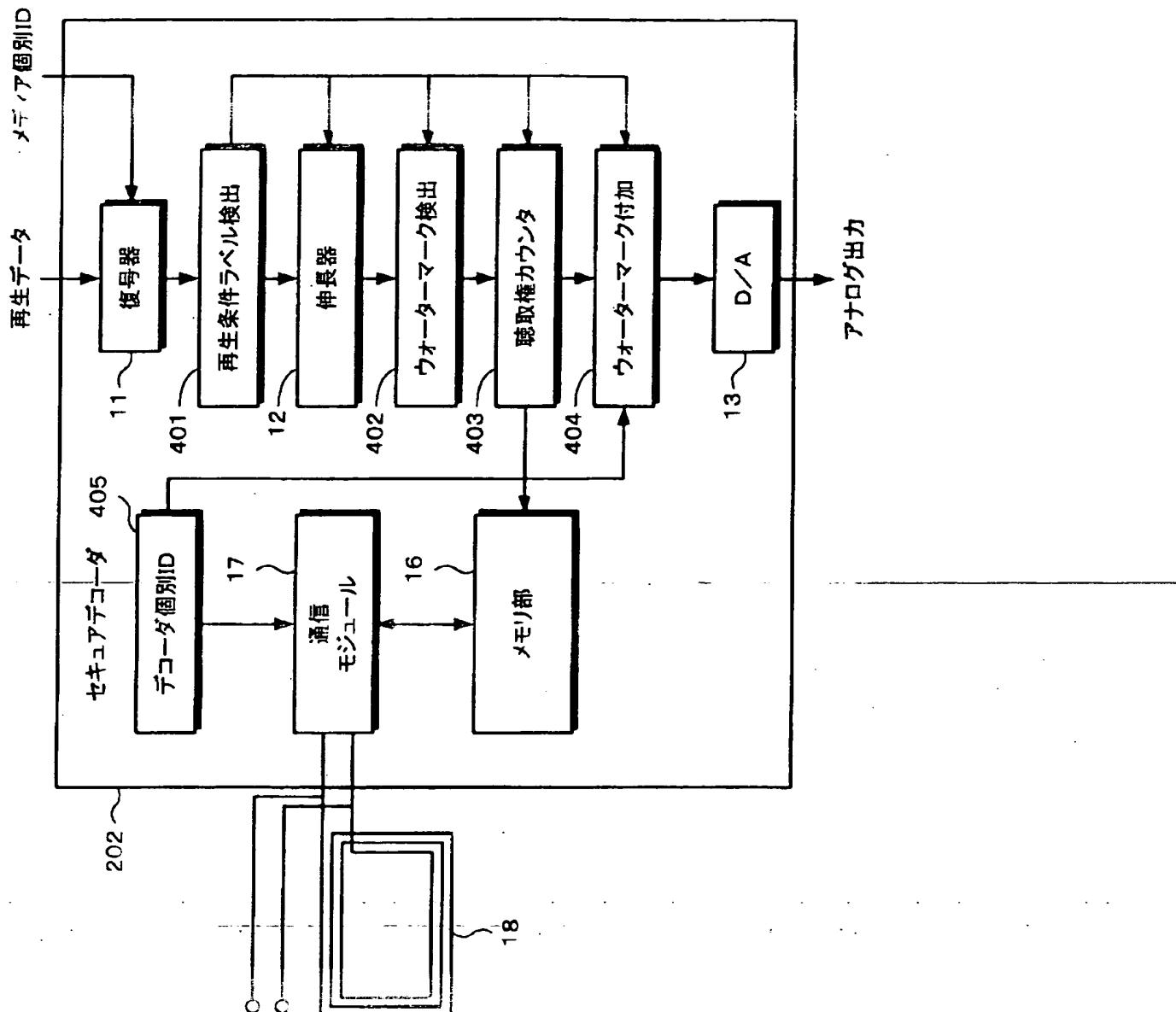
[図7]



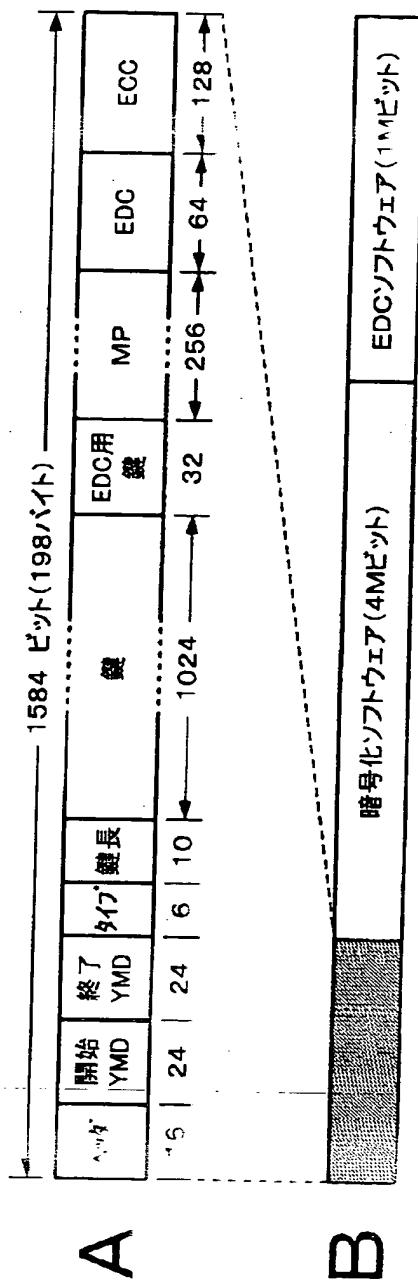
【図8】



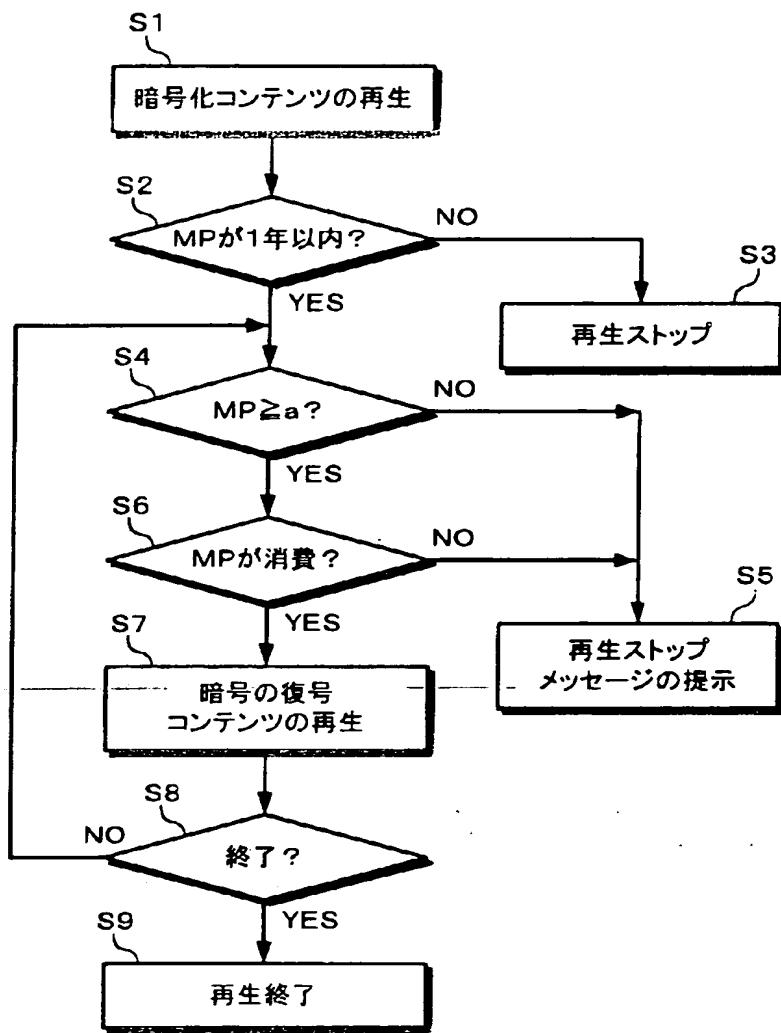
(図9)



【図10】



【図11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 電子マネー、電子利用権のセキュリティを向上する。

【解決手段】 先頭にヘッダが位置し、次に、聴取権データの有効な期間を規定するために、開始年月日と終了年月日とが順に配置される。続くタイプが暗号化の種類を表す。その後に、鍵長が配され、その後に鍵が配置される。そして、EDC用の鍵と、それに続いて256ビットの暗号化された聴取権データMPが配される。データMPの後にEDCとECCとが順に配置される。また、暗号化を行うためのソフトウェア（4Mビット）が配され、さらに、暗号化のソフトウェアに対するEDCソフトウェア（1Mビット）が配される構成も可能である。聴取権データのセキュリティ開始YMD、鍵長、鍵、EDC用鍵の内の少なくとも1つをセンターが定期的、または非定期で変更可能とする。聴取権データのセキュリティを変更した後では、旧いセキュリティの聴取権データが無効となり、古い聴取権データでは、コンテンツを利用できないようになされる。

【選択図】 図10

出願人履歴情報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都品川区北品川6丁目7番35号

氏 名 ソニー株式会社

THIS PAGE BLANK (USPTO)